

生田緑地自然環境保全管理会議ニュースレター

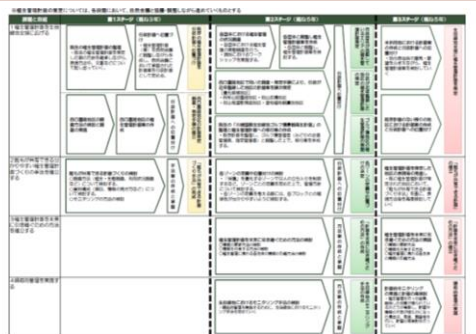
■ 議事概要

- 日時：平成29年7月25日（火）13時30分～15時30分
- 場所：生田緑地整備事務所 □参加者：11名
- 議題：1. 植生管理計画（初山地区・西口園路湿地地区・ホタルの里にある谷戸の水辺に接した竹林・補植用苗木作りの検討）2. 奥の池の水質保全について 3. 報告事項

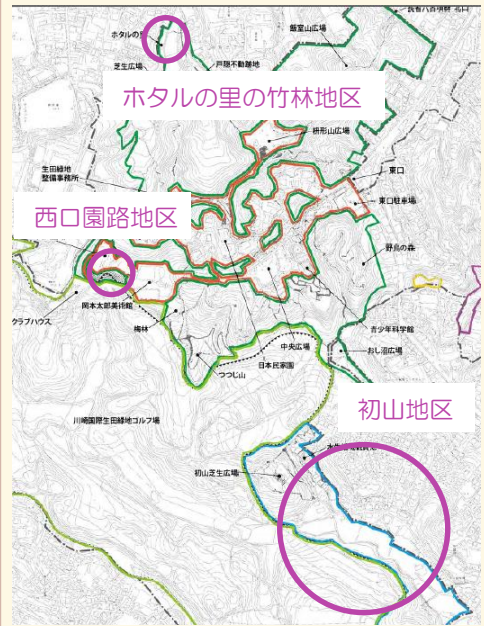
■ 今回の会議内容

1. 植生管理計画実施について

○植生管理計画策定フロー
 生田緑地では平成9年に植生管理計画の概念が導入され、「生田緑地植生管理計画」として市民協働により、生田緑地植生管理協議会において策定され、計画区域の拡大と見直し等を行いながら運用されてきた。
 平成29年は西口園路地区をモデルとして「誰もが共有できる計画づくり手法」を用いて、近年行政が整備した地区を含め初山地区を重点的に検討していく。



図：植生管理計画策定フロー

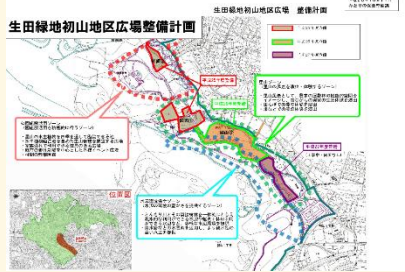


図：第1回自然会議検討地区

各地区の植生管理の実施プログラム案を基に管理内容等を検討した。

○初山地区
 初山地区は保全利用方針にて里山利用エリアとされている。里山の環境というところがキーワードになっており、里山の環境を活かしながら、自然と共存した利用を行う。雑木林や水辺等については、こういった環境を活かし、調整を図りながら自然環境に配慮した管理を行う事となっている。整備計画におけるゾーン分けや、管理内容より、初山地区を4区画に分ける案を提示した。今後は検討スケジュールに沿って、議論を重ねていく。

- 【検討スケジュール】
- 第1回公園整備の歴史やゾーニング等の基本的な考え方について
- 第3回現地会議
- 第4回植生管理計画の検討
- 第5回植生管理計画の決定



図：初山地区広場整備計画

○西口園路湿地地区
 平成26年にモニタリングを実施。その結果を踏まえ平成27年度から議論、平成28年度末に行政計画を策定。ただし、湿地地区の管理内容については検討を重ねている。

- 【目標】
- トンボ類、ゲンゴロウ類などの幼虫が水中ですごす種が産卵場所として利用できる湿地
- 【論点】
- 湿地の管理方法。
- 【結論】
- 湿地の乾燥化を防ぐため、また、昆虫の生息場所確保のためのヨシの間引きを行う。生物相のモニタリングをしながら作業を行う。



写真：湿地内の様子

○ホテルの里にある谷戸に接した竹林地区
雑木林の面影を残しながら、竹林が広がる。裾部に水流があり、ゲンジホテルを
はじめ多様な生物が棲息している。

【目標】

ホテルの里の谷戸に外の光が少しでも入らないように遮るヤブつくる。

【論点】

竹林の管理方法（枯竹の伐採の有無や、作業時期など）と、管理区画について。

【結論】

今年度の策定を目指して、議論を続ける。

図：竹林地区の区画の案



○周辺の雑木林から得たアカシデ・クヌギ・コナラ等の種子からの補植苗木作りの検討
実生が成長しない場所について、アカシデ・クヌギ・コナラ等の種子からの補植苗木作りも含めてやることを
考えていこうという提案があった。

団体だけで難しい場合は、他の施設（例えば緑化センター）などと連携して、苗木作りをしていくことも検討
する。

2.奥の池の水質改善について

●奥の池の水質が悪化しているため、今後自然会議としてどういった検討をしていくか、議論を行った。

【論点】

奥の池の水質が悪化の改善

【提案】

- ・西口園路の雨水排水を奥の池に直接流せないか。
- ・上の池から下の池に流れている水路を下ノ池の上流に持ってくる。
- ・雨の時に地表を流れる飽和地表流が奥の池に入るようにする。

【結論】

色んな方法を組み合わせて出来るところから実施する。自然会議だけではなく、生田緑地マネジメント会議
運営会議でも情報を共有・検討するよう提案する。

3.報告事項

●中央広場付近のキンランの保護について
平成27年度より、キンランの盗掘防止のため、人目につく中央広場
周辺並びにおし沼地区について、キンランに保護看板を設置。
3年経過し、その効果が出ている。

●枳形山広場のフデリンドウの保護について
フデリンドウの保護柵の外側に出てきたフデリンドウについては、
出てきた場所毎に柵を設置に保護管理を行う。

●枳形山南斜面の保全について
斜面の樹木の太枝を落とし、斜面崩壊を防ぐ作業を実施。

中央広場及びおし沼広場に自生するキンランの種名札の設置 結果報告

平成28年7月25日
生田緑地運営委員会事務局
キンランの保護看板の設置後の結果をご報告させていただきます。(下記、図をご確認ください)
中央広場のキンラン(キンラン)は、看板を設置した5ヶ所の内、1本盗掘の痕が見られましたが、
他は全て残りました。また、中央広場のベンチ裏りに出現していたキンランは、保護看板を設置しなかつた
ところ抜かれてしまったところから、保護看板の効果が見られました。
おし沼広場のキンランは、保護看板を子どもの悪戯で壊れてしまいましたが、キンラン自体は残りました。
14ヶ所の調査地点のうち、1ヶ所については保護看板の破損により場所が特定できませんでしたが、
他地点での調査結果については盗掘の痕跡が見られなかったため、子どもの悪戯による盗掘の可能性も
あります。保護看板がないために盗掘の有無が確認できない箇所もありましたが、保護看板を設置した効果
が見られました。
保護看板にキンランの生育特性に関する説明を記載したため、来園者がどうして抜いては駄目なのかを
理解して、他の来園者に教えている様子が見られ、来園者の意識向上に繋がりました。
平成28年度から平成29年度にかけても、同箇所にて看板を設けました。効果については計測してあり
ませんが、毎年同じ場所と同程度のキンランが見られています。また、実業部から、「そとをキンランの
季節だから札を設置しては」と声をかけて頂くようになりました。



図：キンランの保護看板の成果

■今後の予定

- ・平成29年9月8日 第2回自然会議（講演会）を開催予定。（自然会議会員以外も参加可）
講演：都市緑地における雑木林の保全管理
講演者：森林総合研究所 多摩森林科学園 教育的資源研究グループ 島田和則氏
- ・平成29年9月23日 自然会議現地会議開催予定。
目的：初山地区の植生管理計画策定のため

■ 議事概要

- 日時：平成29年9月8日（火）13時30分～15時30分
- 場所：かわさき宙と緑の科学館 □参加者：43名
- 議題：都市緑地における雑木林の保全管理
- 講演者：島田和則氏（森林総合研究所 多摩森林科学園 教育資源研究グループ）
- 協働：特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

■ 経緯

○これまでの勉強会（国土館大学 磯谷達宏氏）

- ・ 生田緑地における生物多様性保全のための植生管理を考える（その①）-どのような植生を目指せば良いのか（2015年9月）
- ・ 生田緑地における生物多様性保全のための植生管理計画を考える（その②）-とくに地形条件に着目して-（2016年9月）

■ 都市緑地における雑木林の保全管理

○目的

皆伐後の更新が順調に進みつつある中、具体的な研究や活動の事例を踏まえて、今後の生物多様性保全のための植生管理計画のあり方について考えたい。

○雑木林の管理方法

- ・ 伝統的管理
- 定期的な皆伐更新や、毎年の林床管理（年1回の下草刈りや落葉採取）など。
7年～20年更新で伐採をしていた。
昭和40年前後より利用がなくなり、放置されるようになった。

・ 雑木林の非伝統的管理

パターンがない。各現場で対応している。
やり方をうまくやれば多様性は保全できる。

・ 単発的管理

放置と変わらないので良くない。

○現代の管理の問題点

・ 利用目的の多様化

植生管理は目的を持って実施すべき。

目的とは、景観美化、保全、資源利用など・・・

・ 管理主体の変化

市民が主体になっている

・ 伝統的管理の限界

放置のため、樹木大木化。伐採後、萌芽更新しにくくなる。

○新しい時代にあった森林管理

・ 選択的除去

残した植物の生育を助ける。そういった植物の生育を阻害する植物だけ除く。

目標とする林を明確化し、それに向けて管理する

- ・ 完成されたマニュアルはないので、現地をよく見るのが大切
- ・ 問題があればどうすればいいか考える



図：第2回自然会議の様子

■議事概要

- 日時：平成29年9月23日（土）9時30分～12時00分
- 場所：初山地区 □参加者：11名
- 議題：初山地区の植生管理計画について

■目的

○今年度の植生管理策定地区の初山地区について、現地にて管理方法の説明・意見交換・質疑応答を行い、今後の植生管理計画策定に反映させていく。

■初山地区について

○おもい出のうたこみち・自然探勝路地区（仮）
園路沿いのササの管理や、竹林管理。
冬場の下草刈りによる林床管理の実施。
★低木は残して管理すると豊かになる。

○初山芝生広場地区（仮）
森の音楽会会場のため環境整備

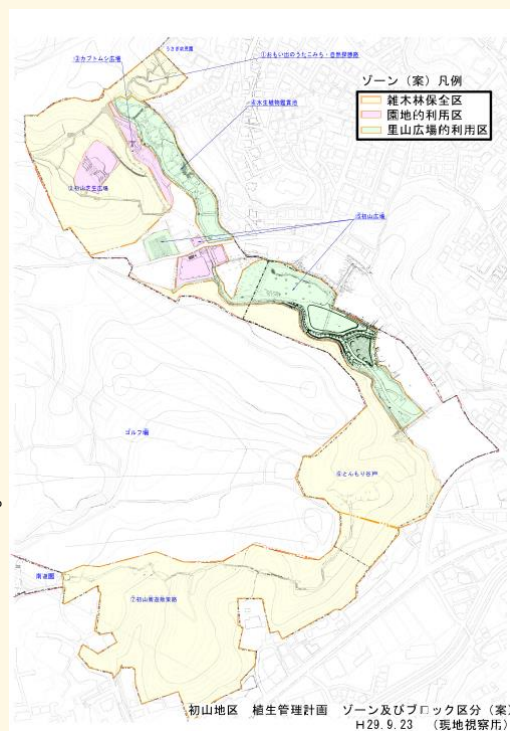
○カブトムシ広場地区（仮）
草刈りの実施。遊具がある広場。

○水生植物観賞池地区（仮）
年3回のアシ刈りと畦刈り。
水田と周辺の管理。酒米づくり（体験用）。
★カナムグラやセイタカアワダチソウは駆除対象。

○初山広場地区（仮）
除草清掃の実施。芝刈りや果樹園の管理。花壇やじゃがいも学校等。
ホタルの生息地として管理や清掃。
★外から持ち込まれた植栽が多数。

○とんもり谷戸地区（仮）
竹林管理、園路際の草刈り、湧水保全など。

○初山周遊散策路地区（仮）
竹林の一部管理。樹木倒木時の対応や清掃
★竹が多すぎる。雑木林内に竹を侵入させないような対応が必要。



図：植生管理計画区分（案）

■会員の意見など（一部抜粋）

- ・水位の管理の問題
 - ・選択的除草実施（落葉樹の低木は残す等の配慮）
 - ・現管理者の管理目標が不明確
 - ・全体的に高木が大きく育ち、ササ・常緑樹の繁茂が進んでいる
 - ・低木性・亜高木性の夏葉広葉樹の維持が課題
- など・・・

写真：現地会議の様子



■今後の予定

参加者からの意見等を集約し、植生管理計画の提案へ反映させていく。

■議事概要

□日時：平成30年3月27日（火）17時00分～19時30分

□場所：生田緑地整備事務所 □参加者：14名

□議題：1. 植生管理計画（ホタルの里にある谷戸の水辺に接した竹林）2. 奥の池の水質保全について 3. 外部からの調査委依頼時の対応 4. 市民部会の活動報告と計画 5. 登戸区画整理事業地内の樹木移植について 6. 報告事項

■今回の会議内容

1.植生管理計画について



○ホタルの里にある谷戸の水辺に接した竹林

第1回自然会議で提案された内容を、改めて合議した。

【結論】

- 以下の点を確認された計画について合意された
- ・ホタルの蛹を保護するために4月～8月は活動しない
 - ・一部、文言の修正
 - ・

※台風による倒木など緊急時対応の際は、従来通り管理者が対応

2.奥の池の水質保全の目標について

- 奥の池の水質悪化の改善する方法について意見交換

【論点】

目指す奥の池の水質と、今後の検討材料について

【提案】

- ・来園者が見てもきれいだなと思う水に戻して欲しい
- ・周辺からの飽和地表流のような自然のプロセスだけでは不十分なため、人工池として水の循環速度を速めることが必要ではないか

【結論】

自然会議だけではなく、生田緑地マネジメント会議運営会議でも情報を共有し、今後の展開を検討する。

3.外部からの調査研究依頼時の対応について

- 平成27年に合意された外部からの調査研究依頼時の対応について調整方法を検討

【論点】

現状の調整方法で良いか

【提案】

多様な調査があるので、パターンをつくるのではなく、一つ一つの案件に対して真摯に対応することが重要

【結論】

現在の調整方法について、会議内で多様な見解があるので次年度以降改めて再検討する

4.市民部会の活動報告と計画について

- 平成29年度の活動内容について報告のち、平成30年度の計画について確認
 - ・里山倶楽部は普通の市民に生田緑地の植生管理を楽しんでもらい、同時に、それが生田緑地の自然を保全することになるボランティア活動として企画・運営している。
 - ・平成30年度の事務局は、非営利活動法人かわさき自然調査団（継続）
 - ・来年度も参加者登録手続きを行った。市民部会A・B共に登録者増。まだ受入れ人数に余裕がある
 - ・4月の里山倶楽部Aは萌芽更新地区でアズマネザサ刈り&オリエンテーション、里山倶楽部Bは飯室山南地区の雑木林に侵入したモウソウチクの除伐を行う。

5.登戸区画整理事業時の樹木の移植について

- 登戸区画整理事業で移動される樹木の移植先として生田緑地が可能かどうか検討
 - 【論点】
移植の可否、樹種と移植先
 - 【提案】
 - ・里山の雑木林を大切にしている生田緑地で外来種樹木を敢えていれる必要があるのか
 - ・遺伝子攪乱や交雑の影響のない樹種と、その周辺に同種による交雑が困難な場所であれば可能ではないか
 - 【結論】
 - ・イロハモミジは、生田緑地付近に元からあった樹木だと確認できれば受け入れてもよいのではないか
 - ・その他の樹木は里山を目標にしている生田緑地には植えないで欲しい

6.報告事項

- つつじ山B3地区、飯室山A15-2地区の状況報告

階層構造のある雑木林に再生している地区であるが、作業を進めていく中で、実生の発芽だけでは十分ではなく補植を行っていく

補植については、出来るだけ生田緑地内で生育している樹種や種子を使うのが望ましい。他の地区で実生から育った樹木の山採なども検討。購入する場合、産地に十分配慮する。

雑木林再生には時間がかかるが、指定管理者とも協力して、少しずつ進めていく

- 北口土砂流出対策について

3月の大雨でも小規模な崩れがあったことを報告。至急対応策の検討を進める。

中長期的・短期的に分けて、整理をしてどういった作業を進めていくかの全体像を自然会議へ改めて提示して、4月以降実際に工事などを進めていく

- 次期指定管理者の紹介

7.その他

- 初山地区の植生管理計画案の検討

計画案を配布し、次回意見を持ち寄り議論することとした

■今後の予定

- ・平成30年、春以降に第1回自然会議を開催